

令和3年度 第1回通級指導運営協議会 議事録（要約版）

日時：令和3年6月21日

会場：兵庫県民会館「福」

協議1「縦横連携における個に応じた指導の充実に向けて」

- サポートファイルは、どの市町も作っているが管理方法については、行政か保護者なのかは市町によって異なる。
- 中学校でも中高連携シートの活用は定着してきている。通級指導でつけない力について生徒や保護者と相談しながら進めている。それらの情報が高等学校卒業後の進学先や就職先での支援の土台になっていくことを考え、中高連携シートや個別の教育支援計画等に入れられるよう努めている。
- 大学進学した生徒が、相談窓口が分からず躓いたことがあった。高等学校や大学の卒業後のことも見据えて、関係機関と連携をしなければいけない。
- 特別支援学校は、関係機関と連携しつつ就労に向けて進めており、卒業後のアフターフォローも行っている。関係機関の知識、連携はノウハウがあるので、情報提供できるのではないかと考える。
- 高等学校を卒業してから相談に来られることがある。就業・生活支援センターは、企業で働くこと、生活面等で困ったときに相談できる場所であり、働くことを応援するところだということを伝えていくことが必要である。学校の先生や生徒には、福祉の情報や障害者雇用の情報を知られていないので理解し、動き出すまでに時間がかかる。
- ハローワークは、働きたい人を応援する所である。通級では、我々と一緒に社会に出た後のことを考えていけるということを広める必要がある。

協議2「小・中・高等学校における連携による効果的な実践普及啓発リーフレットについて」

- 例えば、自閉症スペクトラム傾向の児童・生徒が小・中・高でどのような指導、支援を受け、成長したかを事例という形で掲載してはどうか。注意欠陥多動性障害や読み書き障害の場合の例でもよい。
- 卒業生の声を載せてはどうか。実際の進学や就職等、社会に出たときのことについて伝えられたら、状況が分かりやすい。
- 学校教育から社会に出る、その就労への移行支援をどうするか。リーフレットは、一人の子どもの成長に応じて、小学校、中学校、高等学校、出口の進学や就労と、それぞれの段階での連携における支援を分かりやすく示せるようにするとよい。